

編集 後記

新年の始まりは、家族や親戚、友人など大切な人たちと共に新しい年を祝う心温まるひと時ですが、2024年の元旦は能登地震によりこの大切な時間が一変しました。被災された方々は元旦から避難所での生活を余儀なくされ、寒さ厳しい環境下で低体温症やインフルエンザなどのリスクが増大しています。また、親元から離れて集団で避難生活をしている子供たちもいます。被災された皆様が一日も早く安寧な生活に戻れることを心から祈っています。また、公衆衛生を専門家として、我々一人ひとりが、「現在」と「未来」に向けてできることを考え続け、行動へと移すことの重要性を感じています。

71巻2号では原著1編、公衆衛生活動報告1編、資料2編を掲載しています。2編は母子保健分野、2編は感染症に関する内容であり、いずれの論文も公衆衛生の実践に役立つ洞察も提供しています。

松島らは、妊娠期の専門職への相談機会や支援プラン作成が、産後の母親の地域専門職への信頼や援助先の認知に影響を与えることを縦断研究で明らかにしています。高橋は、北海道に居住する幼児とその保護者を対象に調査し、幼児の肥満が遊び場の有無、睡眠時間、ゲーム時間と関連することを報告しています。これらの研究は、母子保健分野における専門職による個別支援の重要性や、地域や環境特性を考慮した支援の必要性を示唆しています。

土方らは、東京都一行政区のデータを用い、第1波から第5波までのCOVID-19感染者の特徴を調査し、波ごとの感染者の属性や療養種別の特徴を詳細に報告しています。Katoらは、学術、地域、行政の三者間のパートナーシップのもとで、日本におけるエムボックスの蔓延を防ぐために実施されたcommunity engagement approachのプロセスを報告しています。感染症をテーマにした両論文は、新興・再興感染症の迅速な対応には、平時からの備えや関係機関等のパートナーシップ、システム構築の重要性を示しています。

日本公衆衛生雑誌では論壇、総説、原著、公衆衛生活動報告、資料等、様々な種類の原稿を投稿することができます。皆様の研究や活動報告等を本雑誌にご投稿いただけますと幸いです。皆様のご投稿をお待ちしています。
(平野美千代)

次号予告 (第71巻・第3号)

総説

「たばこハームリダクション」は可能か? : 国際的動向と日本での論点……………片野田耕太, 他

原著

住民の身体活動促進のための施策に関する市区町村を対象にしたアンケート調査 : 行政部門別および自治体の人口規模別の検討……………種田行男, 他

資料

保健師数と精神保健福祉相談・難病相談被訪問指導延人数の関連および地域差の検討……………赤松友梨, 他

介護老人保健施設の規模による高齢介護助手の導入実態と課題……………相良友哉, 他